



きよくり news

CONTENTS

- ・年頭のご挨拶
- ・お菓子のおかしな話 寄稿
 辛いチョコレートの話
- ・私のオフタイム
 旅友！飲み友！食友！



Muraguchi Kiyō Women's Clinic

新年あけましておめでとうございます

本年もどうぞよろしく願っています



昨年は本当に忙しい年でした。一つ一つはゆっくり思い出せないほど、たくさんのスケジュールに追われた年でした。クリニックの診療、その一方で私が代表を務める「リプロネットみやぎ」の市民活動（「からだと性のホンネ」報告会、故長池博子代表の偲ぶ会・・・）、「日本軍『慰安婦』問題の早期解決をめざす宮城の会」、「子どもたちを放射能の危険から守り、自然エネルギーへの転換をめざす女性ネットワークみやぎ」の活動と目白押しだった。私にとって何よりも集中したのは、被災地仙台で開催された第29回日本女性会議で、第4分科会「性の健康」の企画・運営を担当したことだった。

「大震災」と「性の健康」がキーワードであれば、待たなしの対応が迫られた「妊産婦さん、そして赤ちゃん」を取り上げるべきと考え、「東日本大震災・原発事故と母子支援～妊産婦と赤ちゃんをどう守れるか～」とした。行政、民間の立場で保健師、助産師、産婦人科医師から報告をいただいた。「妊産婦、乳幼児は災害時要援護者である」を胸に刻んだ。断水や停電の中、支援物資に粉ミルクがあっても哺乳瓶の消毒ができない、感染の危険がある、その時は「紙コップによる授乳を」は始めて知った。落とすところは「母乳に勝る非常食はない」だった。通常からの母乳推進の重要性が一層際立った。とても学ぶことが多い分科会だった。

女性会議が終わった翌日、「憲法9条を守り生かす宮城のついで2012」で大江健三郎氏の講演をぜひ聞いてみたい思い、小雨が降る中仙台国際センターに向かった。主会場はすでに超満員、第2会場のビデオ講演会場も満席、追加された補助イスでの参加だった。参加者1800人とのことでした。

「本質的モラルということ」、かなりハードルが高い印象のタイトルだった。敗戦し、日本国中が焦土と化し、沖縄戦での集団自殺、地獄絵、疲弊した精神・・・、二度と戦争をしない決意で日本国憲法はできた。多くの国民が再び未来に「希望を持てる」と思えた、そのことが最も大切なことなのだ。今それが時代遅れと言える状況なのか。とても重要なことは、①「憲法制定事実」であり、それは法律ができたときの社会状況があり、いまだそれを過去のことでできる状況にはない。②日本国憲法は簡単には改正できないように作られた、綿密に練り上げられたとても抵抗力のある「硬質憲法」であるということである。次の世代が希望を持って生きていく社会を残すこと、それが「本質的モラル」であり、それは一番大切な心で見えるもの、一番大切なものは目には見えないものと結ばれた。また「原発事故は第2の敗戦である」と語る大江氏だが、「脱原発」に立ち上がったのは「希望を持てる社会を残すため」とのこと。久しぶりに穏やかな、清々しい気持ちになれた、忘れがたい日曜日でした。

「あの3、11」以来、日本社会が抱えるたくさんの課題はいっそう明確な方向性を持ってあぶりだされた。一人ひとりにじっとしていられない気持ちを喚起し、日本中で行動を起こす人々が増えてきた。昨年暮れの衆議院選挙の結果を受け、改憲の動きは今後一層熾烈を極めるであろう。性教育バッシングに泣いた過去を決して忘れはしまい。次の世代に希望をもって生きていくことのできる社会を残すために、今年もまたしっかり学び続け、意思表示していかなければならない。

皆様のご支援・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

院長 村口喜代

毎年バレンタインは、私の楽しみです。子供たちの間では今やバレンタインは昔の様に「切ない想いをチョコレートに込めて・・・」なんて習慣がすっかりなくなり、もっぱら「友チョコ」なるものになってしまったようです。それでも、子供たちと一緒にバレンタインの時期に作るチョコレート菓子には、食べてくれる人の事を考えながら作る楽しみがあります。けれど、製菓原材料の会社で働いていたときから、食べてくれる人の事だけではなく、材料を作る人の事も考えるようになりました。

チョコレートは、ヨーロッパで疲れ知らずの妙薬として広まっていて、やがて甘い飲み物に変わり、お菓子へとなくなっていったようです。適度な甘さの物であれば頭を使いすぎて疲れた時などに、口にすると本当に頭が働くので驚きです。そのように、ヨーロッパで広まっていったチョコレートですが、その原材料もヨーロッパだと思う人は今では少なくなっていると思います。

甘いチョコレートですが、その原材料カカオ豆の産地は、貧困が問題になっていて人身売買が行われていたりするケースがあるそうです。生産者のうち、子供を労働力に使っている生産者が数多くあり、賃金は払うものの殆どは山岳地帯の貧しい家族の生活資金として仕送りや、借金の肩代わりとして働いているようです。

一般的な流通でカカオ豆は生産者価格 20 円～ 30 円/kg でブローカーが購入し、数多くの中間業者を通して集められ、先物取引として商社がチョコレートメーカーに販売する時点では、2000 円～ 3000 円/kg となります。「フェア・トレード」とされているチョコレートは商社を通さずに原産国に直接赴き、児童労働や中間搾取を行っていない業者を通して直接購入するために、さほど価格に大きな差が出ずに販売されます。そして、更に原産国の教育や生産者の生産効率の向上に、最終消費者への販売価格の一部が使われているものが多くあります。

大手メーカーのチョコレートでは、なかなかこの様な流通管理ができないために、中には「フェア・トレード」と謳っているが、違うものが混ざっていることが多くあるそうです。このように、チョコレートには甘いながらも、苦い話がついて回ります。

カカオ豆の原産国の人たちが日本と同じように整備された社会インフラの下で、安定した生活を送れるようになるために、チョコレートの価格は年々上昇しています。そうなるころには今の 5 倍くらいの価格となり、庶民の手の届かないものになるお菓子と言われています。価格が上がらないように、生産効率を上げる指導もしているようです。

今のうちに、あのおいしさをたっぷり味わっておくのもいいと思いますが、苦さの中にカカオの実を自分の体の半分くらいの大きなオノで割っている、傷だらけの少年たちの姿をちょっとだけ思い出してください。



私のオフタイム

旅友！飲み友！食友！

医療事務 受付 高橋智江



私には、旅行に行ったり、飲みに行ったり、美味しい物を食べに行く、2つ上のお姉さんがいます。お姉さんとの出逢いは3年前のあるショットバーでのこと。私は知人と初めて入ったお店。お姉さんはそのお店の常連客。全く見ず知らずの2人。カウンター席で隣同士だったが、何も話をしなかった2人。

私が店を出る時突然、お姉さんが声をかけてきました。「連絡先を教えてください！私達絶対気が合うと思うの！」私『（心の中で）えっ！？逆ナン！？』

私も美人には弱い（笑）。お互い連絡先を交換して次の週にすぐ2人で初飲み。知り合ってからすぐ仲良くなりました。『類は友を呼ぶ』お姉さんとは必然的な出逢いだったと思います。お互いこんなに意気投合して2人で旅行に行く仲になるとは想像もしていませんでした。写真は京都2人旅です。次回は海外旅行計画中。

編集後記

今年もきつと忙しい年になるでしょう。
皆さまにとって、幸多き日々でありますように。



【臨時休診】

現在、臨時休診の予定はございません。

発行元：村口きよ女性クリニック
<http://www.muraguchikiyo-wclinic.or.jp>
e-mail: con@muraguchikiyo-wclinic.or.jp

